3

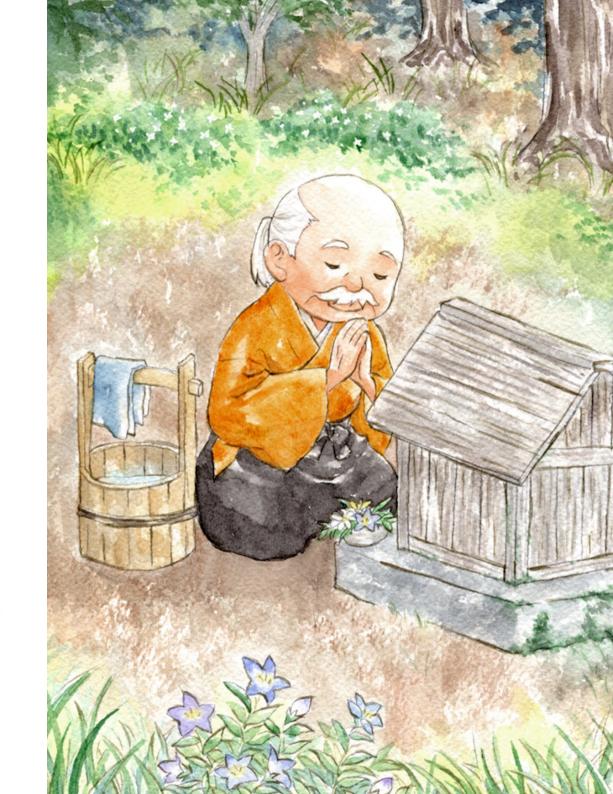
むかしむかし、あるところに、一人のおじいさんがいました。

家は裕福ではありませんでしたが、おじいさんは毎日お ではありませんでしたが、おじいさんは毎日お ではありませんでしたが、おじいさんは毎日お 供え物を持って、山の神様のほこらにお参りに通っていま した。

ある日、おじいさんがいつものように、山の神様のほこらでお祈りをしていると、突然不思議な声が聞こえてきました。

『お前はとても信心深い。そんなお前に、良いものを授けよう』

すると、おじいさんの^{**}頭の上に、なにかがぱさりと落ち てきました。



『それは【ききみみずきん】といって、それをかぶると、 鳥やけものの言葉がわかるようになるのだ。それを使っ て、人々のためになるようなことをしなさい』 「はい神様、ありがとうございます!」

おじいさんは神様に深くおじぎをして、家に帰っていき ました。



2 1

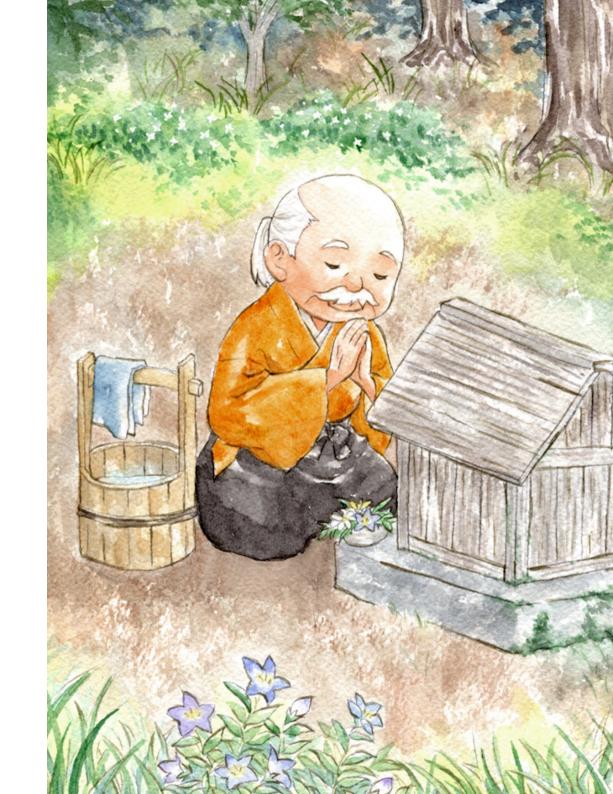
A long time ago, there lived an old man.

His household was not wealthy, however, he visited the small shrine of the God of the Mountain with offerings and prayers everyday.

One day, the old man was praying in the shrine of God of the Mountain as usual, then he heard a mysterious voice from nowhere.

"You are very faithful. I will grant you with some goods."

Then, something had landed gently onto the old man's head.



"It's called 'The Magical Listening Hood', if you wear it, you will be able to understand the language of birds and animals. Use it conveniently to help others."

"Yes God, thank you so much!"

The old man deeply bowed to the God and walked back to his home.

